

小規模特認校入学 の案内

01

小規模特認校制度とは

子どもたちが自分らしく一番輝ける場所を、ご家庭と一緒に選べる制度です。一定の条件を満たせば、お住まいの地域にかかわらず、自然豊かで少人数の学校（小規模特認校）に通うことができます。一人ひとりの声にしっかり耳を傾けるあたたかな環境で、子どもたちの健やかな心とからだを育みます。

02

就学条件

- 1 保護者及び就学予定者、児童が亀岡市内に住所を有していること。もしくは就学までに転入する見込みがあること。
- 2 当該校の教育活動等に賛同し、協力すること。
- 3 保護者の負担及び責任において通学させること。ただしスクールバスを利用する場合は亀岡市教育委員会で定めた取り決めに従うこと。
- 4 原則として卒業するまで就学すること。

03

募集人数

	新1年	新2年	新3年	新4年	新5年	新6年
東別院小学校	11人	10人	8人	10人	8人	6人
西別院小学校	12人	10人	11人	4人	9人	10人
保津小学校	4人	募集なし	4人	募集なし	4人	募集なし

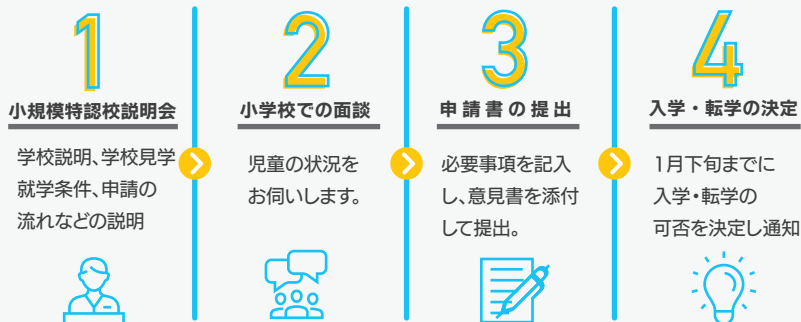
※通常級のための募集となります。

※校区児童等に増減が生じた時は、募集人数を変更する場合があります。

※応募人数が募集人数を超えた時は、抽選となる場合があります。

04

入学・転学決定までの流れ



1

小規模特認校説明会

学校の特色などを説明しますので、入学を希望する児童・保護者は必ず参加してください。

やむを得ず下記日程に参加できない場合は、各学校の開催日までに学校教育課へ連絡してください。

申し込みはこちら……>



開催日時

	開催日	時間
東別院小学校	令和8年9月5日(土)	10時30分～12時00分
西別院小学校	9月12日(土)	9時30分～11時30分
保津小学校	10月5日(月)	13時30分～14時30分

2

小学校での面談

希望する特認校の校長と面談します。児童の状況をお伺いします。

面談申込期限までに、希望される特認校へ電話で申し込んでください。……> 下記の問い合わせ先まで

申込期限 令和8年10月30日 金

POINT

面談期間 令和8年10月9日 金 ▶ 11月20日 金

3

申請書の提出

受付期間 令和8年11月24日 火 ▶ 12月9日 水

提出先 亀岡市教育委員会 学校教育課

！ 応募者多数の場合、公開で抽選を行う場合があります。

4

入学・転学の決定

令和9年1月下旬までに入学・転学の可否を決定し、保護者に通知します。

！ 申請内容が事実と異なる場合や就学条件を満たさなくなった時は許可を取り消すことがあります。

中学校への進学

住所地の中学校のほか、希望すれば小規模特認校の児童が進学する中学校への進学を選ぶこともできます。

05

問い合わせ先

詳しく見る >



学校教育課	亀岡市安町野々神8(市役所4階)	☎ 0771-25-5053
東別院小学校	亀岡市東別院町東掛岩脇9	☎ 0771-27-2043
西別院小学校	亀岡市西別院町柚原佃24	☎ 0771-27-2201
保津小学校	亀岡市保津町溝ノ内20	☎ 0771-22-0350

児童募集

令和9年度入学

小規模特認校の案内

小さな学校で
大きな夢を



東別院小学校

学校のすぐそばを流れるきれいな川。夏には「あゆつかみ」をして、自然を満喫。教室の中では、「夢のゲーム機を作ろう!」という授業で、高学年がチームでアイデアを出し合い、新しい学び(STEAM教育)にも楽しくチャレンジ。「やまびこ学習発表会」では、1から6年生の全校合奏に取り組み、音楽を通して、気持ちが一つになることを経験し、体育館は感動の熱狂に包まれました。子どもたちはもちろん、保護者や地域の方々など、学校に関わるすべての人が笑顔になれる「みんなの幸せ」を大切にしています。



西別院小学校

地域の方々と一緒に農作物を育て、自分たちで商品を考えて販売する。そんなワクワクする起業体験「NISSIカンパニー」は、今年で11年目を迎えます。一連の活動を通して、自分で考える力や社会と関わる楽しさを学び、ふるさとへの愛情を深めています。また、少人数だからこそできる学年をこえた活動や、子どもたち一人ひとりの個性やペースにびったり寄り添う学びを大切にしています。



保津小学校

1年生から6年生まで、成長に合わせて楽しく英語に触れる「Global・Communication・Time(GCT)」を取り入れ、世界に目を向ける力とコミュニケーションの楽しさを育んでいます。また、地域のボランティアの先生たちが優しくサポートしてくれる「保津・地域みらい塾」など、授業以外の学びの場も充実。学年をこえて一緒に活動する機会も多く、全校児童がまるでひとつの大きな家族のように、あたたかい絆を大切にしています。

